



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



# 財政的自立を志向

## 教区司祭地区財務委員会

教区司祭地区財務委員会が五月十六日(日)午後、教区本部で開かれ、教区司祭地区会計の二〇〇九年度決算と二〇一〇年度予算が審議され原案のまま承認された。

参加したのは教区司祭地区とされる小教区のうち種子島と国分を除く十一小教区。審議の中で、計算書で何が一番のポイントであるのかの質問に対し、郡山司教は「的確に問題点を指摘する」としたら、信徒からの献金の合計が約九百九十九万円であるのに対し、司祭寄付金が千五百万円である点」と指摘し「これでは司祭が教会を支えているに等しく、健全ではない」と断言した。

また、会計担当中野裕明神父は、これまで、鹿兒島教区が修道会や宣教会からの人的・財政的援助を受けて成長してきた歴史に触れ、「これからはこれまで以上に財政的に自立していくべき時に来ている」とことを強調した。具体的には財政正常化献金を今年度までとしながらもそれに見合う収入を得るためには、会計の仕組みを教区会計と小教区会計の二本立てにする方向性を示しながら、その意

味を信者全員に理解してもらうために各教会に足を運んで説明したいと話した。

また、信徒委員から、教区に納めている献金の使用目的や、人件費に対する質問もあった。

### 神学生養成費がピンチ

四月十八日(日)教区本部で開かれた教区経済問題

評議会が二〇一〇年度神学生養成費の予算が承認されたが、神学生養成基金から五百万円の取り崩しを収入に計上してもなお、次年度繰り越金が百万にしかならず、赤字予算。教区会計部では、この窮状に際し、将来の教区を担う司祭を志す学生二人のために祈りと献金をお願いしたいと切に訴えている。

## 新風

聖霊降臨を祝った後、教会は「年間」といういわば普通の典礼に戻ります。しかし最初の一月間はイエスの神秘を深く理解するための祝日が続きます。すなわち、「三位一体」「キリストの聖体」「イエスのみ心」です。これらの祝日は人間となった神の子がこの世の中でどのような形で働かれるのかを理解させる祝日です。そのキーワードが「秘跡」と言われるものです。秘跡についての定義はいろいろありますが、「見えない恵みの見えるしるし」とか「キリストとの出会い」とかいうものです。それぞれに意味深いものがあります。この世の中で信者として生きる私たちはその秘跡にあずかるかどうか、どんな変化があるのか、どんな意味があるのかについて考えてみる必要があります。

わたしたちキリスト信者は目に見えない秘跡の恵みにあずかることを目指して生きていくべきです。秘跡は、この世でわたしたちがキリスト者らしく生きる原動力である、と云えます。

## 2009年教勢まとめ 信徒総数は9,357

二〇〇九年十二月三十一日現在の鹿兒島教区信徒総数は九三五七人だった。今回は転出者が少なかつたため二〇〇八年より若干信徒総数は増加しているものの、一昨年の過去十年間で最低だった洗礼者数(一〇二人)と今回もほぼ同じの洗礼者数(二〇六人)だったことから、

信徒数の増加を素直には喜べない現状である。また主日のミサの参列者数も、信徒総数から居所不明者(三四二人)を引いた信徒実数(九〇一五人)を対象に割り出しても二八%と三〇%に届かず、教区・小教区を挙げて「主日のミサの大切さ」を訴え直す必要があることが分かった。【三面に統計表を掲載】

## 宣教学校へのお誘い

日時: 6月22日(火) 18時30分~21時  
23日(水) 9時00分~17時  
24日(木) 9時00分~17時  
講師: 中野裕明神父、坂本進神父ほか信徒数人  
受講料: 22日500円、23日と24日は1,000円  
申込: 受講日を記載の上、6月7日までハガキかファクス(099-225-0440)で教区本部(久保助祭)まで  
〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42  
※食事は各自(但し500円の弁当の申込も可) ※宿泊が必要な方は各自、下記のホテルへ。「セントイン鹿兒島」(ザビエル教会裏) 素泊まり4,200円 ☎

### 設立五年目

### パッションの会

障害者の精神的・経済的自立を目指して毎月会合を重ねているパッションの会が、会の設立五年目に入った。会ではこれを機に、活動を更に拡大しようと五月の会合で「日本カトリック障害者連絡協議会」への入会について話し合った。結論を出すのは次回会合へ持ち越しとなったが、入会に對して前向きな意見が多かった。

会員を増やし支え合う力を強めたいとしている会では、多くの障害者を持っている人の出席を求めている。同会の定例会は毎月第二日曜日、午後二時から鴨池教会要理室で開かれていく。連絡先は久保孝子副会長(☎〇九九-二五四一八六一七)



いらっしゃい!  
教区青年のHP  
http://mz.minx.jp/dejambu

## YET

NHKの朝のドラマ「ゲゲの女房」には、分が幼かった頃の昭和三十年

代、そんな人々の生き方が描かれているからだ。夕飯時になると、外で七輪を使って魚を焼く人たちの姿があった。そして近所へ醤油や塩、砂糖、そして米など借りに行つて、ようやくその日の食事が完成というのがごく日常だった。いわゆるセピア色の思い出。そんな生活の楽しみといえ、豆腐屋さんのラッパの音が聞こえたとき、鍋を持って追っかけること。そして何と言つても紙芝居に、夜鳴きうどん。胸をワクワクさせてその到来を待ったものだ。そんな頃、ザビエル幼稚園に通っていた自分は、土曜学校にも通い始めた。もちろん信者とということもあつたろうが、その頃はなかつたおやつが頂けたからだ。おばちゃんたちがちり紙に包んでくれたビスケットやあめ玉、これを楽しみに少しの苦行に耐えていたのだ。友だちにも「土曜学校でお菓子が出るよ」と宣教したことにも記憶がある。そして年を重ねていくうちに、ぼくを引きつけてやまなかつた「お菓子」の魅力は消えうせてしまった。▼五十を過ぎて今、お菓子がワクワクしなくなつた自分の心を寂しく思う。「ある」のが「整えられていく」のが当然の生活に慣れきつてしまつていくから。お菓子が食べたくなつたりしたそんな気持ちをなくしてしまつていく自分、なんだか人の痛みなど分らない人間になつていつているようで寂しい。

今回は『司祭不在の集会司式』の形式で、「年間第十一主日」の典礼を深めて行きたいと思えます。聖書箇所はサムエル記第二章7〜10、13、ガラテアの信徒への手紙第二章16・19〜21、ルカ七章36〜38章4)を使用致しません。ミサの形式と殆ど同じなので割愛致します。聖書の朗読後、今日の聖書箇所が私たちに何を語りかけているかを深めてみたいと思えます。

今日の説明は『主日の聖書解説(C年)』(雨宮慧著、教友社、2009.11.29初版)二一三〜二一八頁ならびに『主日の福音(C年)』(雨宮慧著、オリエンズ宗教研究所、1991.9.30初版)二〇三〜二〇六頁を参照しました。

(1) 罪ある女性を受け入れるイエスに不信を抱くシモン  
今日の聖書のテーマは「罪を赦される神」。「互いに赦し合うことが神の望み」でしょう。

フアリサイ派であるシモンはモーセの律法に従い、厳格な生活を送っていたと思われまふ。彼が犯した過ちは殆どないと言ってもいいと思えます。シモンはイエスを家に招き、高邁な神学理論を戦わせようとしていたのかもしれない。そこに突然、姦通という大罪を犯した『罪ある女性』は招かれもせず、このシモンの家に入り込み、その場の雰囲気をおち壊しました。食事をするような状況ではなかったと思われまふ。フアリサイ派は罪人と関われば自らも汚れると考え、手を洗い、体を清めてからでないと食事もしないことが規定されているからです。(罪人と同席して食事をすることなどフアリサイ派のシモンにとって有り得なかつた

からです。一刻も早く消え去って欲しいとシモンが願っていたにも関わらず、彼女のするままにさせているイエスにシモンは不信を抱いたと思えます。

(2) イエスのシモンへの問いかけ  
そんなシモンの心を見抜いて、イエスは「五十デナリと五百デナリを借りた二人の人が借金を帳消しにしてもらったとしたら、どちらが貸主をより多く愛するだろうか?多く赦された者だと言われる。多く赦された者はより多く愛し、少し赦された者は少し愛する」と語られます。この原則をシモンと『罪ある女性』の上に適用されます。『罪あ

る女性』はシモン以上に多くの愛を込めてイエスに接しました。それは彼女がシモン以上に多くの罪を赦されたからです。

ところでシモンは『罪ある女性』と比べられています。当時の習慣ではイエスを食事に招いたシモンがイエスに大きな失礼なことをしたのではありませぬ。例えば、足を洗う水をイエスに差し出さなかつたことも、接吻で迎えなかつたことも、頭に香油を塗らなかつたこともさしたる必要がなかつたからです。長い旅ならともかく、日常の客をもてなすシモンの通常の客をもてなす対応に取り立てて非難される無礼があつた訳ではありませぬ。イエスがシモンに言いたかつたことは少なくとも愛したシモンに比べ、多くの

罪を犯した『罪ある女性』の罪が赦されており、彼女の示した愛の大きさ、つまり、涙でイエスの足を濡らし、髪の毛で拭い、足に接吻して香油を塗るといふ行動によって罪が赦されていることがわかるでしょう!という事です。

(3) 示した愛によって赦されたのか(愛)、赦された(信仰)から愛したのでしょうか?  
ここで問題となるのは「罪の赦しは示した愛の大きさによるものなのか」、「イエスによって赦されたから多く愛したのか」、どちらを取るかによってニュアンスが多少異なってしまう結果になります。前者を取れば、『罪ある女性』の示した愛の大きさが

せん。『罪ある女性』が示した愛は「イエスが赦しを与えることができる方である」と信じる信仰が行われたもので、赦しは神だけが与えることができると思はれる。『罪ある女性』はイエスを迎え入れられた時にすでに赦されています。しかし、『罪ある女性』は赦しを確信していません。イエスが罪の赦しをわざわざ宣言されるのは、『罪ある女性』に救いを確信させるためでした。『罪ある女性』はイエスの足元にひざまずくとき、愛を行うものとなりました。それは彼女が神に赦されたことの証しです。彼女だけがイエスが誰であるかを知っていました。多くの人はそのことを知りませんでした。

北薩地区宣教奉仕者(信徒使徒職)養成講座  
『ゆるし』について  
出水教会主任司祭 大松 正弘

条件となり罪が赦されたことになり、後者を取れば、イエスによって罪は先に赦され、結果として大きな愛を示したことになる。イエスに示した愛の大きさによって罪が赦されたのでしょうか?彼女の罪はイエスに会う前にすでに赦されていたのでしょうか?

(4) 両方ともが解釈として可能  
48節でイエスが「あなたの罪は赦された」と告げていることから考えると、前者にうまくつながり「愛したから赦された」となります。しかし50節に「あなたの信仰があなたを救った」とありますように、ここでの愛は人間の良心から生まれるものではなく「信仰」と置き換えることができる「愛」にほかなりま

「愛」と「信仰」はどちらが先か一方に固定化されるべきではありません。確かに、罪の赦しはまずあって愛は始まるでしょう。しかし愛によって救いが確かになるとはいえないでしょうか?「愛」と「信仰」は相互的に作用しあっています。「信仰」が「愛」を生むと同時に「愛」が「信仰」を生み出すのです。この関係に人々を招かれるのがイエスとの出会いです。彼女の涙は喜びの涙であると同時に、罪を悔いる涙でもあるのです。人は愛するとき赦され、赦されるとき愛するのです。「神からいただく赦し」と「神の愛に応えること」は相互的に影響しあひ、この親しい交わりの中で深い信仰に導かれるのです。

**+KABAYAN SEKSIYON+**  
"Kawalan ng Pananampalataya laban sa Pagkilos"  
Ngunit mayroon isang "praktikal na di-pagkilala sa Diyos (practical atheism)" na naging higit na laganap kaysa sa anumang pangkaisipang kawalan ng pananampalataya: mga Pilipinong nabubuhay na para bang walang Diyos. Gaya ng mga Hebreo noong unang panahon, hindi sila nagtatanong: "Mayroon bang Diyos?" Sa halip, pinag-uukulan nila ng pansin ang praktikal na tanong: "Nasa piling ba natin ang Diyos o hindi?" "Kailangan ba tayong mabahala tungkol sa Kanya?" "Sasaktan ba tayo ng Diyos sa anumang paraan?" Walang pakialam sa pag-ibig ng Diyos ang mga "praktikal" na taong ito na di-kumikilala sa Diyos. Napapatunayan ito sa kanilang kawalan ng utang na loob, pagwawalang-bahala at katamarang espirituwal. Bigo silang makita ang mga tanda ng pag-iral ng Diyos. "Hanggang kailan ako mamaliitin ng mga taong ito? Bakit hanggang ngayoy ayaw pa nila akong paniwalaan, sa kabila ng mga kababalaghan ginawa kong nakita nila?" Ang pagkabalag na ito ay karaniwang mauugat sa dalawang pangkalahatang dahilan. Una, mayroon isang kaisipang pagabug (pragmatic) at makamundo (secularistic) na sinusukat ang lahat ng tagumpay ng tao alinsunod sa "pagpapalayang pangkabuhayan at panlipunan". Sinabi ng PCP II ang tungkol sa isang "namamayaning konsumismo sa ating lipunan". Inilarawan ni San Juan ang pangunahing sanhing nasa bawat isa sa ating ating likas na pagkiling sa kasamaan nitong "makamundong pananaw": "Ang nakapupukaw sa masamang pita ng laman, ang mga nakatutukso sa paningin, at ang karangyaan sa buhay-ay hindi nagmumula sa Ama kundi sa sanlibutan" Ikalawa, higit pang naangkop sa ating Pilipinong kalalagayan na masasabing sanhi ng kawalan ng paniniwala sa asal ay ang kahirapan at kawalang-katarungan sa ating paligid. May mga mabibigat na pahayag ang PCP II tungkol dito sa mga pambansa ng ating pagkamalasan: "Sa kahirapan at kakulangan ng kaunlaran sa ating bansa, sa mga hidwaan at mga pagkakahati-hati nito, nakikita natin ang kamay ng pagkamakasalan ng tao, lalo na sa mapangkamkam na mga galamay ng kasakiman para sa pakinabang at kapangyarihan." Malaking bilang ng mga tao ang may matinding kamalayan sa kanilang kawalan ng mga yaman ng daigdig sa pamamagitan ng kawalang-katarungan at di-makatarungang pamamahagi". "Sa gitna ng maraming inagawan ng mga pangunahing pangangailangan upang mabuhay, mayroong iilan na nabubuhay sa karangyaan at inaakosya ang kanilang kayamanan. Magkatabing umiiral ang luho at karalitaan".

「話の内容についての印象や解り易さ、自分の体験等について参加者による分かち合い」  
赦しの秘蹟との関係で、ただいっている罪の赦しは、新たな心をいただくため大切な秘蹟ですが、最近、この秘蹟にあずかる信徒が減っています。神からの罪の赦しを体験できることは他者の足りなさや完全を赦す心をいただくためにどうしても必要なことだと思えます。この秘蹟を味わうことが少なくなれば、神の限りなく赦しを生かすことが難しくなるように思えます。他者との決定的なぶつかりを避けるためにも必要な秘蹟であることを意識し、神からの赦しを願いたいとき個別に秘蹟にあずかる必要があると思えます。

《感謝の祈り》参加者の誰かが自分のことばで感謝の祈りをささげる。

次回は六月十三日(日)十四時から、阿久根教会で行われます。

[和善の窓から] その(祭)  
聖書通読マラソンのお勧め



Fr. 松田清四朗  
「生涯の思い出に」聖書全巻を読もう。1年、365日という期限付きで読んでみよう。という単純な挑戦が、この「聖書通読マラソン」です。この運動が始まってもう25年になりました。奄美の教会にいたときから始まったものです。現在まで3千人以上の完走者がいます。聖書全巻を読み切るといふ目標のために、「和善の聖書研究」があります。これは35年間継続しています。現在は、司教区本部三階で以下のスケジュールでなされています。一人でも多くの兄弟姉妹たちが、聖書全巻の読破に挑戦するように。この祈りはこれからも続けられます。

土原4-217-2 浅野たか子 (申込者名・霊名・霊名日・連絡先・1000円) 封書でお申し込みください。申し込みますと、小さなパンフレットが送られてきます。開始日を記入し、そのパンフレットの案内の順で読み始めてください。  
(詳細: m\_takako@zm.commuja.jp)

和善の案内  
(どのクラスも4~5人の空席があります)  
▲学びは直線的ではなく螺旋的に進行します。しばらく忍耐が必要ですが、何時からでも、どなたでもどうぞ!  
■於・本部3階、※月18:30(救済史+AsIPA) ※水10:00(救済史+AsIPA:第2と4) —WAZEN ころ相談室(第1と第3、要予約、お問い合わせ ☎099-226-2430 Ms. ヤマダ 火水木土 午後1時~5時まで) ※金10:00(救済史+AsIPA)  
◆和善耕心塾ブログ  
http://mr826.net/wazen/blog (Fr. マツダ)

[申込先] 〒466-0026 名古屋市天白区

# インターネットはいかがが!

## ネット宣教委が吉野と鴨池で講習会

今年を教区の「ネット宣教元年」と位置づけた郡山司教の思いを実現するために有志で組織されたネット宣教委員会が、吉野(五月九日)、鴨池(五月十六日)でインターネットに関する講習会を開いた。



この講習会は、各小教区におけるパソコンの有無やインターネット環境についてのアンケート調査を実施した同委員会が、環境を整っているにもかかわらず小教区がホームページに乗り出さないなどインターネット利用が不十分な現状は、その利用の仕方や価値を理解してないからではと考へ、その素晴らしさを実演を交えて伝えようと企画したもの。

ネット宣教委員会のメンバーとともに吉野、鴨池の両教区を訪問しその日のミサを司式した司教は、「ミサ後に教皇の「現代が求めている最新コミュニケーション技術を用いての宣教に乗り出すように」と訴えた今

### 司教執務室便り

## シヨックを力に

五月連休の「五島巡礼」最終日となる三日の巡礼地は三教会。そのうちの一つ、百十五年の歴史を誇るレンガ造りの美しい井持浦教会がメイン。両手を広げて迎える白い姿の御心のご像。台座に記された「いらつしやい」の文字。聖書のみことばでなく今時の挨拶の言葉というのが印象的だった。誰のアイデアか知由もないが主任司祭の世に開かれた感性が感じられて嬉しかった。

日本最古のルルドがあることでも有名。全国各地から巡礼者や観光客が後を絶たない。「ミサどころではない」という主任司祭の助言に従って当初予定されていたミサを福江教会に変更。たしかに、私たちと入れ替わりにやってきたのは大阪からの観光客。やはり水汲みが目的らかった。

今回の巡礼で訪問した教会は上五島と合わせて十三。長崎にも多くの巡回教会

があることに驚いたが、それ以上に、訪れた教会がいずれも百年を超すものばかりだということと、石造りにレンガ造りと教会建築としても見せる価値のあるものばかりだったことにシヨックに近いほどの感動を覚えて言葉を失った。なるほど世界遺産に登録する価値は十分にある。鹿兒島の教会群を思わないではおれなかつた。百年を超す教会は奄美の二つ、芦花部と瀬留だけ。誇れるほどの建築様式があるわけでもない。張り合うつもりなど毛頭ないのだが、「これでは敵うわけがない。やっばり鹿兒島はザビエル様で行くしかない!」初めての五島巡礼はそんな悟りを得たような納得の旅だった。

今後は、ザビエル教会を起点としたザビエル様ゆかりの地を巡る教区内巡礼、さらには長崎をはじめ九州各地を結ぶ巡礼コースを開発し、鹿兒島から日本にそして世界に発信しなければならぬ。これがカトリック発祥の地の使命。そう力むこの頃。



年の「世界広報の日のメッセージ」を解説し、その後自身のブログ「24時間司教」などを例にあげインターネットによる宣教の素晴らしさを紹介した。

吉野・鴨池の両教会で

## 子ども五人が受洗 — 鹿屋教会 — フリリン共同体



はミサ後に多くの信徒が残る、世界に繋がるデジタルの世界に驚きの声を上げ、また小教区での利用についても前向きに考えたいと積極的だった。

四月二十五日(日)鹿屋教会で五人の子どもたちが洗礼の秘跡に授かりました。この子どもたちのお父

## PHILIPPINE FIESTA DAY IN KAGOSHIMA

(フィリピン独立記念日)

日時: 6月12日午前8時30分~

場所: ザビエル教会

問合せ: 090-2085-1094 (ベルナルディーノ神父)

## 集まろう! 青年

浮き沈みの激しい青年たちの集いを立て直そうと青年有志が司教との分かち合い(第二土曜日十九時、教区本部)やザビエル祭への協力を続けている。また六月二十六日には司教と共に参加する立正佼成会との交流も計画している。参加希望の方は、教区青年ホームページ(一面にアドレス掲載)から連絡を!

さんは日本人、お母さんはフィリピン人です。新しい命、新しい信者が鹿屋教会に、そして鹿屋のフィリピン人共同体に加えられました。これは外国人司牧の恵みです。ご両親、子どもたちおめでとうございませう。(報告/ベルナルディーノ神父)

## 鹿兒島教区教勢

2009年12月31日現在

教会名	信徒数		信徒の移動		主日ミサ参加者	洗礼		堅信	教会学校(幼・小学生)		教会学校(中学生)		教会学校(高校生以上)	
	総数	不明	死亡	転入		転出	幼児		成人	信徒	総数	信徒	総数	信徒
阿久根	61	0	4	3	0	45	4	0	1	0	0	0	0	0
出水	178	0	0	0	1	30	2	4	3	0	4	25	0	0
入来	89	0	1	0	0	30	0	3	1	6	0	0	0	0
大口	161	0	0	5	0	55	3	0	0	3	12	12	3	3
川内	312	13	5	4	9	75	0	0	1	0	12	12	6	6
鹿屋	265	30	0	2	1	60	0	4	1	1	0	0	0	0
国分	156	4	0	2	3	40	2	0	2	0	0	4	0	0
志布志	86	0	0	0	2	20	0	0	0	0	0	0	0	0
垂水	21	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
始良	302	15	1	37	4	60	0	1	1	0	12	12	0	1
指宿	89	0	1	0	3	25	0	0	2	0	0	0	0	0
加世田	136	8	1	4	0	40	0	0	0	0	3	6	3	5
鴨池	548	49	6	10	12	80	2	2	2	0	15	24	0	0
ザビエル	966	42	18	22	9	335	12	4	26	17	31	37	5	13
谷山	814	25	11	11	7	280	8	3	1	12	6	17	2	2
種子島	96	0	0	1	1	13	0	0	0	0	2	2	0	0
玉里	268	17	2	4	3	65	1	1	5	4	12	12	4	4
溝辺	31	0	1	0	1	15	0	1	5	3	0	0	0	0
茶原	177	12	3	14	5	40	3	1	0	0	4	11	0	0
吉野	187	10	0	3	0	80	6	0	0	0	4	16	2	4
大笠利	625	46	15	0	0	140	0	2	2	2	11	26	16	16
小宿	340	0	1	0	2	80	0	0	0	0	4	12	0	0
古仁屋	174	15	12	0	3	25	0	0	1	0	0	12	0	0
瀬留	396	0	6	0	1	120	2	0	4	0	5	5	1	1
大熊	606	4	8	0	0	250	7	2	6	34	18	18	0	0
古田町	755	36	9	1	6	170	2	1	5	0	19	19	6	10
聖心	863	12	12	5	7	260	4	3	2	14	22	23	0	0
母間	467	0	11	3	1	73	1	0	3	0	11	14	0	0
和泊	188	4	1	8	5	26	1	0	0	0	6	8	0	0
計	9357	342	129	139	86	2537	60	32	74	96	213	327	48	52

## 6月会と催し

- 6日(日) キリストの聖体
- 11日(金) 教区修道女連盟総会・教区本部
- 12日(土) イエスの心
- 13日(日) フィリピンフェスタ・ザビエル教会・8時30分
- 14日(月) 年間第十一主日
- 14日(月) 司祭年閉年ミサ・ザビエル教会・14時
- 14日(月) 泉浩二神父、東研神父霊名(聖アントニオ)
- 18日(木) 司教総会・18日まで
- 20日(土) 年間第十二主日
- 22日(日) 奄美の宣教司牧を考える会
- 22日(日) 宣教学校・教区本部・24日まで
- 22日(日) 洗礼者聖ヨハネの誕生
- 24日(火) 小川靖忠神父霊名(洗礼者聖ヨハネ)
- 24日(火) ハヌス神父霊名(聖ハンス)
- 25日(水) 山口重義神父叙階記念日(一九七二年)
- 25日(水) 年間第十三主日(聖ペトロ使徒座への献金)
- 27日(金) 教区司祭会・教区本部・16時
- 28日(土) 定例司祭集会・教区本部・10時
- 29日(日) ムイベルガ神父叙階記念日(一九六九年)
- ▼聖ペトロ 聖パウロ使徒
- ▼「聖パウロ」糸永真一名誉司教、小隈憲士神父、坂本進神父、アン神父「聖ペトロ」美島春雄神父、竹山昭神父、永山幸弘神父

# 召命への私の思い

—スペイン留学を前に—

教区神学生 園田 克也

この三月長崎カトリック神学院を卒業した教区の園田克也神学生(十八歳)は、スペインの大神学校(オプス・デイ経営)へ進学するため日本を離れる。彼を小神学校へ送り出した玉里教会では、四月十八日(世界召命祈願日)に園田神学生に彼の召命について話してもらい、また教会報にその内容を掲載した。教区報では、その教会報から園田神学生の温かい心を紹介したい。

中学時代の私は学校での人間関係がうまくいかず、誰も信じられない時期があり、人と話すときも心を閉ざしてしまっていました。そんなときにいつも心を開いて、声をかけてくれる人がいっぱいいました。それは、神父様だけではなく、教会の信者さんたちでした。そして私はこの人たちのために「何かしたい」と思うようになりました。その後、その気持ちは増してきて、ある日、いきなり「神

沖繩担当をしていたときのこと。沖繩の本土復帰に伴い、諸制度をアメリカ方式から日本方式に変えることとなり、その内容は労働条件にかかわるものが多かった。ある案件について、労働組合との交渉をまとめるにあたって、組合の主張を一部のまなければならぬ。つまり私が負けたのである。当時、職員を採用し給料・ボーナスを支給、宿舍を提供、訓練、厚生施設を整えるなど定年までにかかる経費は一人当たり数億円であった。余分に要員を置くことは、それだけ余分な経費がかかることである。年もおし迫ったクリスマス前、意気消沈して帰りの機中で「来年は左遷かな」



学校に行きたい」と思ったのです。その気持ちを当時主任司祭だったサンタマリア神父様に伝えると、教区の神学校を勧め下さる、鹿児島教区の召命担当司祭の木村神父様と泉神父様の二人に相談したらいいとアドバイスしてもらい、父と一緒に相談しに行きました。そのとき四人で話しているときのこと、唯一覚えていたのは父の一言で「皇帝のものは皇帝に、神のものは神

に返しなさい」と聖書にあるように、私も神様にこの子を返します。実はこの聖書の箇所はその日の福音だったので。ここから、神学生としての歩みが始まりました。「なぜ教区に？」と考えると、まずサンタマリア神父様が私の気持ちをしっかりと理解し、教区を勧め下さったからです。更に、たくさんの方が声をかけて下さり、支えられていると感じることができ、またこの人たちのためにと思わせてくれたからです。でも、たまに、それがプレッシャーになることもありました。ですが、それは、

と思いつつ報告のため帰庁すると、「幹部会で慰労会をするから」と直属の部長が迎えてくれ、会場への車中で「ボーナスはプラスをつけておいたからな」と。「へっ、何故」という感じ。私は交渉に負けたのに。仕事の結果により評価される

## みことばシリーズ⑫

### プラスになったボーナス

終身助祭 桃菌淳一郎

ところである。ボーナスが平均であつてよい方、むしろマイナスがついてもおかしくないのだから。今でも何故なのか理解できない。あえていうなら「わたしは光である。わたしに従う者は暗闇を歩かない」(ヨハネ八の12)だろうか

て、「今」どう行動しているかである。失敗や成功は結果でしかない。今度のことは、神さまが私の部長に、「あいつの結果ばかりではなく、仕事ぶりを見なさい」と促してくださったのだと思っている。もし私がいがかげんなチャランポランな

。洗礼の恵みをいただいで以来、この「みことば」を生活の基本としたいと努めてきた。「暗闇を歩かない」ということは、誰からも見える、見られているということ。何をすることも全力投球ということである。一人の「キリスト者」として



## 催し物

●坂本進神父の「ホリスティック療法・癒しと祈りの集い」  
6月21日(月) 10時～12時15分  
ザビエル教会1Fホール 500円

●宣教奉仕者の集い  
7月11日(日) 13時30分～  
教区本部会議室 (田)泉神父講話(月)教区フェスタについて

文芸

俳句

出水教会 沖 弘子  
主に誓ふ二人の眩し風光る  
祭壇のバラの香ぐわし聖母月  
母の日や野良着姿の母浮かぶ  
愛の色青葉若葉に働きて  
草餅の匂い懐し母の味

純心学園 川上 和  
ハナミズキ小池に姿映しおる  
燭 歌  
世の中を生き切る事の難しさ一人で生きて一人で逝きて  
人形の絵を描き込む夜更けを樹樹の梢に雨は鳴りつつ  
純心学園 川上 和  
みことばを蒔きし大地に水注ぐ司祭の業のいと尊し

## 長崎、上・下五島教会巡礼

鴨池教会 榎木紀子

自分は神様からどのようなことを求められているのか、じっくり考えるようにしたいと思えます。最後にになりましたが、私は未熟な人間ですので、

晴天に恵まれた五月一日から四日まで、郡山司教様同行のもと二十数人の信者達は、長崎と上・下五島の教会巡礼に出かけました。早め早めのスケジュールだったため、渋滞に巻き込まれることなく上五島に入り、バスに乗り換え若いガイドさんの「五島の空の青、海の蒼は信仰の原点に立ち

戻れるところ」という言葉に胸がキュンとなりました。晴天の日の海の色はまさにエメラルドグリーン：美しく心洗われる思いでした。長崎の朝は早く、主日のミサは八時。その前にロザリオを唱える習慣が今も続いているとのこと。：、ちょうどその場に臨みました。先上げのご婦人の声が大きな聖堂に響き渡り、独特の節回しがタイムスリップしたかのように見えたこともない昔を偲ばせてくれました。二人の侍者もロザリオ

を跪いて唱え、他の一人は答唱詩編を歌い、共同祈願は小学高学年らしい女の子たちが唱えていいます。老いも若きも一つになつて、自然体でミサにあずかっている光景は、私にはとても新鮮で心に深く残りました。長崎を離れる日の朝ミサは六時(浦上教会)、平日なのに大勢の人々。その中にたった一人の男の子(七歳と三日)が一言一句間違ふことなく大きな澄んだ声で祈りを唱えていました。男の子の声と前日の先上げのご婦人の声が合わり、何とも言えない不思議な思いで胸がいっぱいになりました。下五島に渡る朝のこと、被爆マリア像が無事ニューヨークに到着のニュースを聞きました。そして我が家に着き、五島の美しかった夕陽を思いながら時を過ごしていると桜島の灰が音もなく静かに降り出し、私は「黒い雨」のことを思い出しました。この旅で出会った方々は温かく、また「五島ロザリオロード」を訪れた「神の計らいは限りなく：」教会巡りで十字を切る度、静かに浮かんだ言葉でした。神に感謝！この旅は、夫が希望し申込んだ夫婦の旅でもありました。